

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093100073		
法人名	麻生介護サービス株式会社		
事業所名	アップルハートくつろぎ春日		
所在地	春日市小倉3丁目71-5		
自己評価作成日	平成27年6月12日	評価結果確定日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

アップルハートくつろぎ春日は、関係機関と密接な連携を図りつつ、お客様の心身の状況、その置かれている環境及びご希望を踏まえ、家庭的な環境とお客様それぞれの役割を持って日常生活を送る事が出来ようサービスを提供し、お客様の認知症の進行を緩和し、安心して日常生活を送る事が出来るようにお手伝いさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アップルハートくつろぎ春日」は小規模多機能と併設型の1ユニットグループホームで、開設から間もなく3年目を迎える。法人は福岡県内一円で福祉サービスを提供しており、当事業所でも関係事業所と連携して一体的なサービスの提供がなされている。閑静な住宅街で環境の良い立地で、近くで菜園の収穫なども楽しんでいる。サービスも一人一人の時間を大切に安全、安心なケアを心がけており、入居者も能力を生かして料理の手伝いなどに取り組んでいる。地域との交流も進み、今年よりコーダークラブのボランティア受け入れも始まった。法人のエリア会議で情報共有も行き、職員も安定してきてスキルアップにもつながっている。医療連携もよくとられ、今後も地域との協力を深めて一体的な発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて企業目的・行動規範を唱和しております。	理念は事業所内に掲示され、入社時に企業目的と行動方針が書かれたカードが全員に配られ常に携帯されている。入社時には伝達と目標設定も行われ、今年からは毎年の目標設定もするようになり、事業所、個人それぞれの目標を立て振り返りもされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小倉自治会の・夏祭り・どんど焼きに参加予定。	地域のお祭りの見学や、どんと焼の「左義長」も恒例で毎年参加している。クリスマス会には地域ボランティアにも来てもらい、リコーダーサークルには2階の会議室を練習場所として提供している。認知症サポーター養成にも取り組み、地域に向けて啓発活動を行っており、今回は高校からの職場体験の要請があって、受け入れ計画もなされている。	地域の保育園や幼稚園、小中学校などの子供たちとの交流機会が持てるような関係を築かれてはどうか。また、自治会加入の打診はされているが、入会には至っていないとのことで引き続き検討されることと、地域との交流も盛り込まれた行事の開催なども期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は春日支部会で年4回の認知症サポーター養成講座を地域住民様向けに行います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で出席者の皆さんに提案事項や質問を受ける時間を取っており、改善点があれば行っております。	併設の小規模と合同で2か月に1回開催され、自治会、民生委員、市職員、地域包括、家族代表などが参加し、家族は代表がローテーションで順番に出ている。会議ではヒヤリハットなどの状況報告や、地域からの行事予定などをいただいている。参加者からの申し出で地域のリコーダーサークルのボランティア受け入れにもつながった。	取り組みを参加以外の家族などに知ってもらうために、議事録の整備や、閲覧、公開の仕組みなどを検討されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議による実績報告と月に1度の春日支部会で情報交換を行っております。	ケアマネが小規模多機能と兼任しており、毎月報告で市役所を訪問している。2ヶ月ごとに市内事業者の連絡会も開かれており、市が主催することでそこでの接点も持たれている。連絡会と共同することでサポーター養成活動にも取り組んでおり、何かあった時の協力や連携も取りやすい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間ベットからの転落防止のため同意書を交わし、片側ベット柵2本を設置している。	夜間のみベッド柵の利用があるが、同意を得ており、状況確認もされている。玄関施錠は夜間のみで、建物内の行き来も自由である。ユニット入口にはセンサーを設置しているが徘徊される方はいなかった。毎年内部研修で虐待防止と身体拘束廃止に関して研修を行っており、スピーチロックに関しても日頃から注意している。	同意を得ているベッド柵の利用があるが、解消に向けた話し合いや、記録への落としこみを組織的に行い、取組みが推進されていくことに期待したい。

H27自己・外部評価表(くつろぎ春日)7.27

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	H27年2月に高齢者虐待防止について定例研修にて実施済み。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H27年6月に権利擁護について定例研修にて実施済み。	今年から事業所内での定期研修も始め、パンフレットを使って成年後見制度について学んだ。今のところ家族がいるため利用が想定されるケースはないが、資料準備を進めている。必要時にはケアマネ、本部の事業部などに相談して対応体制を作っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時と解約時に説明を行い、ご納得頂き署名・捺印を頂いております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしております。	意見箱の活用はなかったが、概ね全家族が月1回以上面会に訪れており、面談時などに意見を聞くことが多い。近隣からの入居も多く、コミュニケーションもよく取られている。以前口腔ケアに関して意見が上がった時も説明して納得してもらえた。何かあった際も直ぐに話し合っ報告し、理解を得ており、今回のアンケートの回収率も高かった。	苦情や意見があがった時に、全員で共有するための記録の取り方や、申し送り方法の見直し、苦情受付簿の活用がなされることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所会議やミーティングを行っております。又、職員と個人面談を行い意見交換や個人目標の設定を行っております。	併設小規模多機能と合同で会議を行い、終わった後に事業所単独でもカンファレンスを行っている。パートを含め全員が参加し、欠席者にも議事録で伝達し、「主任ノート」を使って職員が日々の改善点や要望を上げたりしている。現場目線での改善を大事にし、各役職間での連携をとって業務に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社はキャリアパス制度を採用しております。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しましては性別、年齢は不問です。社会参加や自己実現のお手伝いが出るよう有給休暇制度がございます。又、外部研修の案内も行い、個人のスキルアップが出来るようにしております。	新卒採用も進めており、20～60歳代で男女のバランスよく配置されている。研修案内もされ、勤務として参加もしており、休憩時間や場所も確保されている。比較的若い職員も多いがコミュニケーションもよくとられ、それぞれレクや食品、物品などの担当も持っており、明るい雰囲気業務にあたっている。	

H27自己・外部評価表(くつろぎ春日)7.27

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定例研修 高齢者虐待防止 認知症の特徴実施済み。27年2月 外部研修にて虐待について研修済み。	内部研修とグループホーム協議会での外部研修で高齢者虐待防止や不適切なケアの防止に関してなどの学習を行った。正社員は入社時に全体で集まって本社でのコンプライアンスや倫理規定を含めた研修も受けられている。	外部の人権に関する研修や、研修内容の伝達、報告を行ったり、地域の関連団体を活用した資料貸し出し、講師派遣なども検討されてはどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を行い、個人のスキルアップが出来るようにしております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県GH協議会に加入し研修等に参加しております。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学を行なって頂きアセスメント、居宅計画書に本人の意向を聞き出し反映させております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を行なって頂き事前にアセスメント、居宅計画書にご家族の意向を聞き出し反映させております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を行なって頂き事前にアセスメント、居宅計画書にご家族の意向を聞き出し反映させております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に負担にならない程度に出来る事を一緒に行なっております。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には電話、面会時に近況報告を行ないながらご家族にも支援の協力を行なって頂いております。		

H27自己・外部評価表(くつろぎ春日)7.27

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に限らずいつでも来て頂けるように、入りやすい環境を作っております。友人や以前の仕事仲間の方も面会に来られます。	連絡を受けて、かつての職場の同僚が来たり、家族の面会機会も多い。以前はいきいきプラザに知人を訪ねて行くことがあったり、近隣の友人が来訪されることもあった。認知症が進んで以前より何かをしたいという意欲があまり出なくなってきたが、家族にも支援してもらって墓参りや外食などをされる方もいる。	認知症の進行によって意欲低下が見られるが、意欲を引き出すような働きかけや交流関係の掘り起こしによって、関係の支援がなされることにも期待したい。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を把握し、座席のセッティングを行ない日常生活を通して交流を行なっております。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、今後も何かあればいつでも相談が出来る、支援させて頂ける事を説明しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人やご家族の思いや要望を把握し、職員間で情報を共有、ケアプランに反映し実施しております。	法人独自のアセスメント様式があり、ケアマネが入居時に聞き取り、ADL項目に関しては現場担当の職員が記録している。介護認定時の情報照会も行い、半年ごとに見直しも行っている。意思疎通の難しい方には日頃の様子などから意向を読み取り、情報を伝えることで家族からも聞き取っている。	現在も研修を進めている所であるが、職員も認知症実践者研修などの学習を進めることで、スキルアップにつなげ、アセスメントの関わりが含まれていくことに期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや担当者会議を通して情報の共有を行なっております。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人を把握出来る様に日々の記録、申し送りを行なっております。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当がモニタリングを行いケアマネが情報を集約し計画書に反映させている。	今年から担当制を取り入れ、プランを元にした日程表で、計画の実施管理とプランの把握につなげている。毎月のモニタリングは担当が行い、ケアマネが監修している。担当制にすることで職員の意識も変わり、家族との関わりも深まった。半年の見直し時に担当者会議を開き、更新時には看護師や医師からも情報を聞いて、家族にも参加してもらいプランに活かしている。	

H27自己・外部評価表(くつろぎ春日)7.27

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様ごとに個別に支援記録を記入し職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しを行っております。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様やご家族の連絡や状況にて急なサービスの追加に対応しております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、地域包括、自治会と連携を行ない、必要に応じて連絡、相談を行っております。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を確認して、訪問医の診療。定期的な受診はご家族にお願いし、急な受診やご家族が対応出来ない受診はこちらで対応しております。	希望するかかりつけ医を継続できるが、提携医に変えて往診を受ける方が多い。他科受診の際は基本は家族に介助してもらうが、必要時には事業所の支援や同行も行っている。医師への申し送りなどある時は書面で報告もしており、提携する訪問看護が毎週健康管理に訪れ、家族への報告は口頭で行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況観察や入浴時の皮膚観察等を行ない必要におおじてご家族に相談し受診を行っております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に同行して病状や日常のADLを報告し、退院前にはADLの確認のためのサマリーや病状確認のための診療情報を提供頂いております。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今の所看取りの事例はございませんが、ご希望があれば提携医の先生や医療連携の訪問看護ステーションの看護師と協力して看取りのケアを行って行きます。	重要事項内に看取り介護の具体的内容が記載され、希望された際は出来る限りの支援をする方針である。契約時に同意書も取り交わし、必要時には訪問看護との連携をとり、提携医も24時間対応をしている。以前の看取り対応時には喀痰吸引や点滴などの対応をしてもらったこともあった。	今後も要望があれば看取りを行っていく考えがあるので、職員との共有やスキルアップのために、医療やターミナルケアに関する研修などが行われることにも期待したい。

H27自己・外部評価表(くつろぎ春日)7.27

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例研修で研修を行なうと共に心肺蘇生法・AEDの研修に参加し緊急時に備えております。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年に2回定期的に行っているが地域の方と一緒にした経緯はない。今後、民生委員様や近隣の方との連携は図れるようにしたい。	訓練は併設の小規模多機能と合同で、年2回の内1回は消防署も立会い、その際には通報、消火も含め総合訓練を行っている。AEDも設置されており救急救命訓練もしている。スプリンクラーなど防災設備も整えており、備蓄物も準備されている。	非常時の地域との連携のために、訓練への地域への呼びかけや、夜間想定訓練の実施が望まれる。また、新入職員に対しての避難方法や対応の伝達が随時行われていくことにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に合わせた声掛けや一人一人の人格を尊重し、丁寧な言葉掛けをするよう入社時に研修を行なっている。プライバシーの保護を行なうために排泄や入浴時にはカーテン等を利用しております。	入社時の導入研修以外でも、毎年定例で内部研修を開催している。個人情報に関しては写真利用も含めて契約時に重要事項説明で同意を得ている。相手を尊重した対応として、言葉遣いだけでなく、職員の表情にも気を配ったケアを心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体操等は体調を見ながら参加して頂いている。レクリエーションの参加はご本人様の意見を尊重している。また、朝食でのパン食の希望に対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分とは言えないが、食事の時間をずらしたり庭や近隣の散歩には対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望に応じて月1回の訪問理美容を依頼している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご体調に無理が無い程度に配善、下善、テーブル拭きのお手伝いして頂いております。又、外出時には食事のメニューを決めて頂いております。	業者による決まったメニューで、調理済み食材の配達があり、ご飯と汁物のみ事業所で調理している。入居者にも皿洗いや配下膳など出来る事は手伝ってもらい、感想や要望を聞いて反映させたり、パン食にすることもある。法人系列のカフェで外食もしており、メニューから選ぶことで刺激にもつながっている。職員は別の時間に個別で食事をとっている。	

H27自己・外部評価表(くつろぎ春日)7.27

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	契約時に食事制限の有無を確認し、管理栄養士に適正量を相談しております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず歯磨きを行なって頂き、十分では無い方は職員が口腔ケアを行なっております。又、希望により訪問歯科診療を利用し口腔内の健康維持に努めています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録に残し、定期的なお声掛けや介助を行ない自分で出来ないところの支援を行っております。	排泄や水分チェック表を使って全員分を24時間管理している。自立した方は自分でしてもらい、排泄状態によってリハビリパンツやパットの使用量などの負担を軽減できるよう随時提案もしている。必要があれば夜間のポータブルトイレなども使用してもらい、便の状態も時系列で管理する事で、便秘の対応にもつなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分に取って貰える様に促している。便秘気味のお客様には運動もしてもらい様に声掛けをして予防に繋げている。日々の記録により処方薬である下剤の服薬も行なっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	契約時にご本人やご家族に入浴時間や希望曜日をお聞きし入浴を行っております。	ユニットバスに個浴で、基本的には週3回10時～15時の入浴である。人によって偏りのないように、バランス良く提供し、拒まれた際は無理強いせず別の日などを提案している。一人一人お湯を変えることで清潔を保ち、ベンチ付きの浴槽によって、ゆったりとそれぞれのペースで入浴を楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やお客様に合わせてそれぞれの就寝時間の声掛けを行なっている。処方された眠剤の服薬時間も医師に相談しながらお客様によって時間をかえている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様のファイルに最新の処方箋のコピーを頂き、把握に努めている。また、変化があった際にはご家族・主治医に連絡する等、連携にも努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日のお客様に状態等に応じ、ご本人様の意見を取り入れながら職員が楽しめる様に工夫して支援している。また、お客様の趣味等を把握し、個々の対応も行っている。		

H27自己・外部評価表(くつろぎ春日)7.27

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話などからご本人様の希望を汲み取り、外出の計画を立て行なっております。	季節の花見、おやつレク、法人系列の喫茶店に軽食に行く事もある。個別レクでの対応も行うが、日頃は近隣公園への散歩が多い。車いすの方が増えて外出が難しくなってきたが、テラスや玄関先などで気軽にちょっとした日光浴などをしてもらっている。	職員の配置や、入居者の状況によって外出提案も難しくなってきたが、誕生日などに行きたい所を聞き取って個別対応にしたり、ボランティアを活用した少人数外出、家族に協力を依頼したりと、様々な検討がなされることにも期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物等ご利用者様からご希望があれば、出来るだけ実現出来るようにお手伝いして行きます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、電話機をお貸しして番号と一緒に確認してご利用頂いております。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアはカーテンやテーブルの配置換え夏場や冬場はエアコンを利用しております。玄関・フロア等、季節に合わせて装飾品を取替え季節感を感じて頂ける様な環境作りを行っている。	明るい色調のフローリング様の床張りで、廊下やホールの広さも十分に余裕をもって確保され、非常に開放的である。四方に窓があることで、風通しもよく、採光にも優れる。周囲に緑も多いため季節の移り変わりも楽しめ、室内では季節折々の飾り付けが明るく施されていた。リビングから洗面台も近くに備え付けられ、トイレなども使い易いように配置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様一人一人の希望や気の合うお客様同士に状況を把握し、日常生活を過ごして頂きレクリエーション・談話等思い思いに過ごして頂いている。また、独りになりたいお客様に関しては個室でお休みになって頂いております。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い出の家具や使い慣れた物の持ち込みをお願いしております。	居室は広めで、廊下から継ぎ目のないバリアフリー仕様で、クローゼットも備え付けられる。介護ベッドの配置は自由で、テレビ、タンス、椅子などを持ち込んでそれぞれの部屋づくりがなされており、家族写真を飾ったり、好きな時計をかけたりとされている。ナースコールもコードレスにされており、どこからでも呼び出しが出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のニーズと残有能力を理解し、出入口の掲示や歩行運動が出来やすいように矢印を廊下にひいています。		